

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年4月30日 (2010.4.30)

【公表番号】特表2009-532332(P2009-532332A)

【公表日】平成21年9月10日 (2009.9.10)

【年通号数】公開・登録公報2009-036

【出願番号】特願2008-557569(P2008-557569)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 8/64 (2006.01)

A 6 1 Q 19/08 (2006.01)

A 6 1 P 17/16 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 8/64

A 6 1 Q 19/08

A 6 1 P 17/16

A 6 1 P 43/00

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月9日 (2010.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象の皮膚の若々しい外観を維持するため、

対象の皮膚の老化の外観ないし発現を低減するため、又は

対象の皮膚の老化の外観ないし発現を抑制するために使用する、グランザイム B 阻害剤

。

【請求項 2】

前記皮膚の細胞外蛋白質の含有量を維持又は増加するため、及び / 又は

前記皮膚の皮膚エラスチンの含有量を維持又は増加するために使用する、請求項 1 に記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 3】

前記皮膚の弾力性を維持又は増加するため、

前記皮膚の脆弱性を維持又は低減するため、

前記皮膚の堅牢性を維持又は増加するため、

前記皮膚の剥がれ落ちやすさを維持又は低減するため、

前記皮膚の乾燥度を維持又は低減するため、

前記皮膚のポアサイズを維持又は低減するため、

前記皮膚の厚さを維持又は増加するため、

前記皮膚の細胞の代謝回転速度を維持又は増加するため、

前記対象の前記皮膚のしわの外観ないし発現を維持又は低減するため、

前記皮膚のしわの深さを維持又は低減するため、

前記対象の前記皮膚の細かいしわの外観ないし発現を維持又は低減するため、及び / 又は

前記対象の前記皮膚の変色の外観ないし発現を維持又は低減するために使用する、請求項 1 又は 2 に記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 4】

対象の皮膚の老化的外観の発現速度を低減するために使用するグランザイム B 阻害剤。

【請求項 5】

細胞外蛋白質の含有量の減少速度を低減するため、及び / 又は

前記皮膚の皮膚エラスチンの含有量の減少速度を低減するために使用する、請求項 1 又は 4 に記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 6】

前記皮膚の弾力性の減少速度を低減するため、

前記皮膚の脆弱性の増加速度を低減するため、

前記皮膚の堅牢性の減少速度を低減するため、

前記皮膚の剥がれ落ちやすさの増加速度を低減するため、

前記皮膚の乾燥度の増加速度を低減するため、

前記皮膚のポアサイズの増加速度を低減するため、

前記皮膚の厚さの減少速度を低減するため、

前記皮膚の細胞の代謝回転速度の減少速度を低減するため、

前記対象の前記皮膚のしわの発現の増加速度を低減するため、

前記皮膚のしわの深さの増加速度を低減するため、

前記皮膚の細かいしわの発現の増加速度を低減するため、及び / 又は

前記皮膚の変色の発現の増加速度を低減するために使用する、請求項 1、4 及び 5 のいずれかーに記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 7】

対象の皮膚の非弾力性を低減するため、

対象の皮膚の非弾力性の増加速度を低減するため、又は

対象の皮膚の弾力性を維持するために使用する、グランザイム B 阻害剤。

【請求項 8】

対象の皮膚の体毛の毛包密度を増加するために使用する、グランザイム B 阻害剤。

【請求項 9】

前記グランザイム B 阻害剤を局所的に適用するため、

前記グランザイム B 阻害剤を皮下的に適用するため、又は

前記グランザイム B 阻害剤を全身的に適用するために使用する、請求項 1 ~ 8 のいずれかーに記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 10】

前記対象は人間を除く哺乳動物であることを特徴とする、請求項 1 ~ 9 のいずれかーに記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 11】

前記対象は人間であることを特徴とする、請求項 1 ~ 9 のいずれかーに記載のグランザイム B 阻害剤。

【請求項 12】

対象の皮膚の若々しい外観を維持する、

対象の皮膚の老化の外観ないし発現を低減する、

対象の皮膚の老化の外観ないし発現を抑制する、

対象の皮膚の老化の発現速度を低減する、

対象の皮膚の非弾力性（弾力性のなさ）を低減する、

対象の皮膚の非弾力性の増加速度を低減する、
対象の皮膚弾力性を維持する、又は
対象の皮膚の体毛の毛包密度を増加するための美容的処置方法であって、該対象の皮膚
にグランザイム B 阻害剤を適用することを含む、美容的処置方法。

【請求項 13】

グランザイム B 阻害剤又はグランザイム B 作用物質ないしアゴニスト (agonist) の識別方法であって、

i) グランザイム B を試験化合物と接触させ、初回刺激を受けた (primed) グランザイム B を形成する、

ii) 該初回刺激を受けたグランザイム B を細胞外皮膚膜に接触させる、

iii) 切断された細胞外蛋白質の量を測定する、

という手順を含み、

そして該切断された細胞外蛋白質の量が小さければ、該試験化合物はグランザイム B 阻害剤と判断され、該切断された細胞外蛋白質の量が多ければ、該試験化合物はグランザイム B 作用物質と判断される、ことを特徴とする方法。

【請求項 14】

グランザイム B 阻害剤又はグランザイム B 作用物質ないしアゴニストの識別方法であって、

i) グランザイム B を試験化合物と接触させ、初回刺激を受けたグランザイム B を形成する、

ii) 該初回刺激を受けたグランザイム B をエラスチンに接触させる、

iii) 切断されたエラスチンの量を測定する、

という手順を含み、

そして該切断されたエラスチンの量が小さければ、該試験化合物はグランザイム B 阻害剤と判断され、該切断されたエラスチンの量が多ければ、該試験化合物はグランザイム B 作用物質と判断される、ことを特徴とする方法。